

2024 フクシマ連帯キャラバン報告書

今回、3月16日~20日にかけて「2024 フクシマ連帯キャラバン」に初めて参加させて頂きました。東北地震があった当時、私は18歳でした。東北で原発事故があり、たくさんの方が避難され大規模な被害があったことに対して全く興味を持っていなかったのが事実です。会社に入社し組合員になり青年部の役を持たせていただいたのをきっかけに興味を持つようになり、今回フクシマ連帯キャラバンに参加させて頂けたことを感謝しています。ありがとうございました。

初日は、福島県飯坂町で行われた県民大集会に参加してきました。「若者からの訴え」ということで高校生平和大使の方がたくさんの人前で原発反対に対する意見を述べており自分ももっと頑張らないといけないとすごく力を貰いました。県民集会の後は、結団式、学習会を行いALPS処理水の海洋放出について学ぶことが出来ました。実際、海洋放出が行われることで漁連関連の方だけでなく私達の生活にも大きな影響を及ぼし、最悪のケースでは、海でとれた魚を口にすることで内部被ばくする恐れもありALPS処理水の海洋放出は、断固反対すべきことだと改めて感じました。

二日目は、キャラバンの歴史について学習会を行い、その後、フィールドワークで浪江町請戸小学校、浪江町大平山霊園、原子力伝承館を見学しにいきました。道中、現在もフェンスで区切られている場所だったり避難した人の家だけが残っていたり放射能を数値化して見ることができる「モニタリングポスト」が設置されていたりと、未だ復興が進んでいない場所を自分の目で見る事が出来ました。メディアでは取り上げられていない場所がたくさんあることを知り、ものすごく衝撃を受けました。

三日目は、引き続き福島でのフィールドワークを行ったり、地元の原告団の方との意見交換を行ったりしました。

フィールドワークを行った津島地区は、実際放射能から避難された地区で人影も少なく、誰も住んでいない家やボロボロの診療所などが未だに残っており当時の悲惨さを感じる事が出来ました。

四日目は、茨城県に移動し東海第二原発の30キロ圏内にある15自治体へ避難計画及び老朽原発20年延長問題などを記した要請書を首長へ提出する要請行動を行いました。いくら原発が住民の生活を守っているとはいえ、いくら安全な避難計画が策定されているとはいえ、原発事故が起きてしまえば速やかに避難出来るわけではないし、安心して生活を送れなくなります。地震や津波などは、対策は厳しいかもしれないが、原発事故は、原発を無くすという対策を取れるので、やはり原発は無くすべきだと改めて強く思った要請行動でした。

最終日は、東京の代々木公園で行われた「さようなら原発」全国集会に参加しました。全国の方が代々木に集結し、原発反対を叫びました。キャラバン隊が登壇した際、私のじいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん世代の方

から「若い力でがんばれー」だったり「いいぞー」といった暖かい声をたくさんかけて頂き、ものすごく感動し、鳥肌が立ちました。

しかし、周りを見渡しても若い人たちは、ほとんどおらず、すごく寂しい気持ちにもなりました。

全日程通して、実際に被災した地域を見たり、避難された方の話を聞いたりして、すごく為になる経験をさせて頂きました。

しかし、キャラバンに参加して満足するのではなく、キャラバンで学んだ事を生かし原発事故を風化させないために地元の人々に伝えていきます。

最後に準備などをしてくださった東北地方青年部の方に感謝します。本当にありがとうございました。

これからキャラバンが今よりもっと大きなものになるよう協力できることは協力していきたいですし、応援しています。そしてキャラバンで出会った仲間と今後も全国で共に組合活動できることを楽しみにしています。五日間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

全港湾日本海地方敦賀支部 百田 聖治